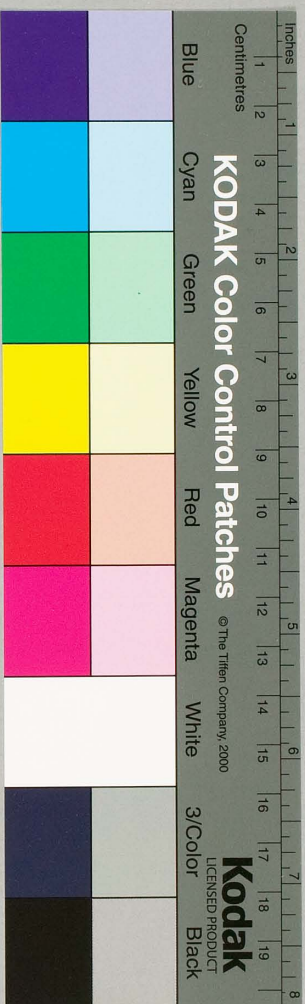


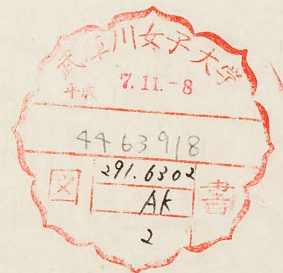
0409



攝津國
宮

住吉名勝圖會
二

291.6309
Ak
2



住吉名勝圖會卷之二目錄

年中行事畧記

踏歌節會之圖

白馬節會之圖

御結鎮神事之圖

闘雞之圖

汐干之圖

大乘會舞樂之圖

卯之日祭圖

競馬之圖

御田植女之圖

田樂之圖

社僧優戲之圖

荒和御被之圖

孟蘭盆會之圖

相あひあひ樸の會の之の圖

新あらた嘗め會の之の圖

以上

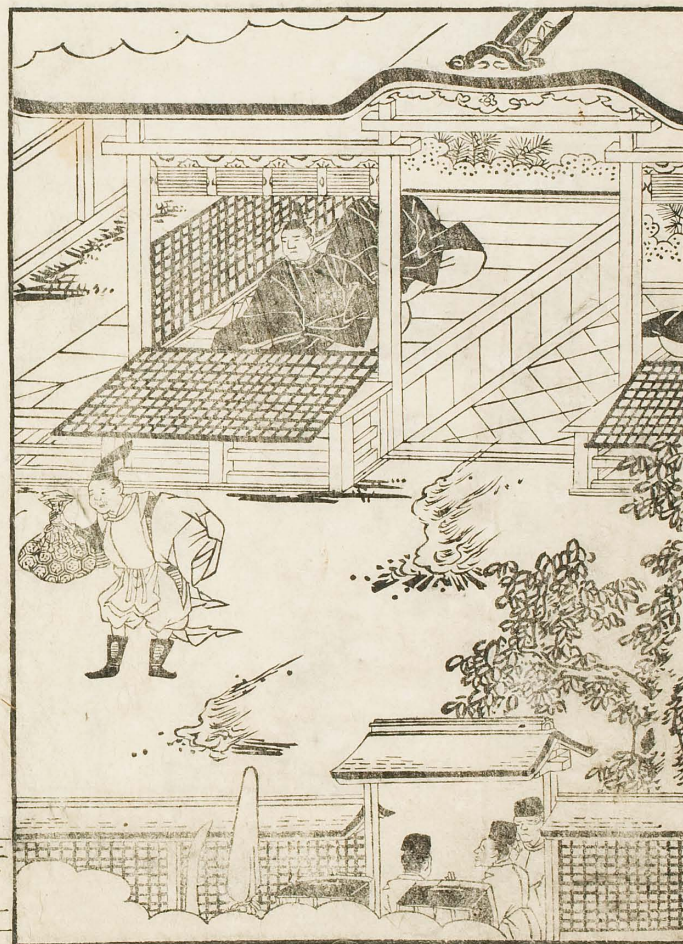
北きた祭まつり神かみ事こと之の圖

二
目

神かみ之の祕ひ露ろ之の者
盡は乎や靈たま通と
之の者の神かみ乎

浪華なげはな橋はし亭てい肅そ題だい圖

正月四日夜
踏歌



住吉年中行事

正月

○朔日

辰之半尅奉神供

總宣權官氏人等晦日の夜より神領殿より龍一此時御前より

神明白散神酒御鏡餅櫃の御供を奉給宜若水を奉給
總宣權官氏人等晦日の夜より神領殿より龍一此時御前より
各再拜してあつと出給所の御供を奉給
權宜祝詞を差
殿廻り終て後神領殿へ入
修正會自今日至七日
總宣權官神宮寺の
書戸より入て社僧と同
子退給
以下退給

○二日

早且兩官出仕奉幣拜大神

午中尅吉書始神館殿
と祈歌り文臺松

○三日

同前

○四日

同前今夜戌尅踏歌

兩官

一之神殿より幣殿へ着座に樂人拍子笙篳篥笛大拍
子等と持北の中心の前より立雙調と吹き此殿を
下舞終て釋文持幣持と御前より餅と幣より
童練男御前より出舞田中井戸と終て萬歳樂
出兩官以下樂人舞人等神宮寺より萬歳樂
延喜樂を差其外式事もありて退出

○五日

兩官出仕拜大神

○六日 同前

○七日

辰之尅神供備進

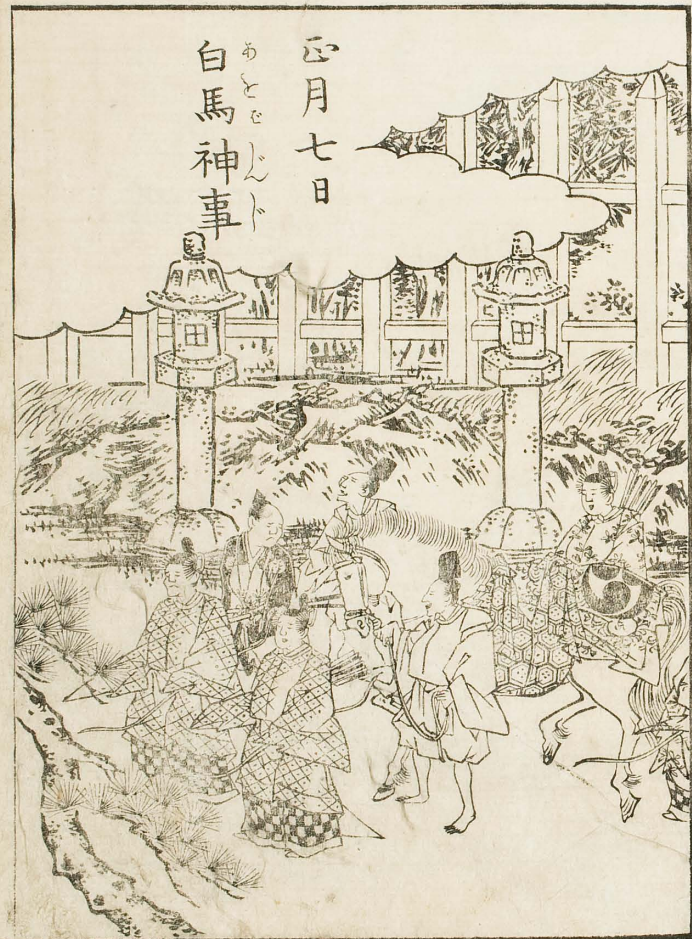
神宣總宣權官幣殿へ着座に
氏人等庭上より着正給宜祝
詞を差終て神馬を牽廻其後五折御前より
祝詞を差饗膳の式ありて各退出

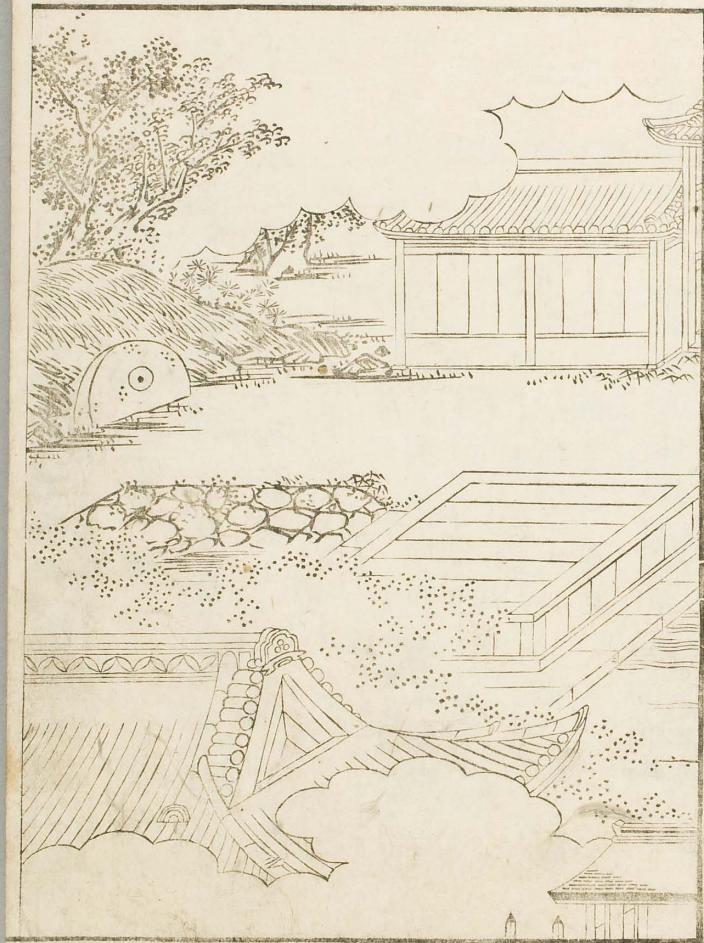
己之尅白馬神事

○八日

津守寺修正會

馬四疋内一疋川原毛持利男十人
引矢と持青權の持衣を着
兩官氏人樂所神官已下出仕
万歳樂延喜樂を差に嚴勝





講の齋師高座に登り三臺^{さんたい}
講^{こう}下高座三臺急^{さんたいきゅう}やと終て谷退^{やたい}出に
花^{はな}

○九日 正印殿習禮 ○十日 津守寺修正會 八日の式と
同車

○十一日 手鋤始 辰の尅一の
神殿の前 午尅評定始 正印殿より
行 今朝

辰之上尅正印殿御修法 神宮寺社僧
ふれとけし ○十三日

己之尅御結鎮神事 兩宮神官氏人等上客殿より
着座一盞とすむ而して

若宮の御前より五次第の神殿より常殿より
着座に神供等より奉り御講の導師講終て各上客

殿より退き座に神宮寺の社僧同く着座に政所目代
射手より射手出て弓とく此時南門の側より酒

華鬘とり射手より酒一盞華鬘一とくより十番
終て各御前より賭弓の射手より前と總官權官

酒五盞とす客殿より座より
退出に

○十五日 辰尅神供備進神拜殿廻り 五所御前
神供備進

○十六日 辰尅四社神供備進 正称宜祝詞と着に
五所御前の神供備進

午尅正印殿祈禱

○十八日 奥天神社奉幣神拜 ○廿三日 御連歌會 久りんの

卯半尅正印殿
行

○廿六日 御連歌會 卯半尅連歌所
行へ ○廿七日 御歌

古正印殿とて
行

二月

○朔日 神供備進拜太神 ○二日 祈年祭齋戸^は後

兩宮神官下客殿より着座一祝詞と
養一酒一盞とす畢て退く 祈年祭者^は祈豐年^は

大祭凡祈年新嘗祭於神祇官行之見於延喜式

住吉亦修此祭禮以祈嘉穀也

○三日 早且兩官出仕奉幣拜太神 正祢宜祝詞と奏し殿廻り

酉之尅神館殿中鯉渡之式

○四日 早且兩官出仕拜太神戌尅四社神供備進祈年

穀之祭也

兩官下客殿より着座に敷祈司バビ女等同く座より酒一献とす座に就て軒下より列立權少祝案内とす一やれやれと神官兩官御前より總官庭上より圓座とす座と權官氏人等建てし極神供と奉り正祢宜祝詞と奏し二三四の御殿是より

○五日 早且兩官出仕拜太神 待者御前御供御酒壺を渡り奉り

酉之尅國祭

兩官以下着座昨夜の酒一献終て後在廳社系神馬四疋と進み且幣とつて祝詞とす此間神馬と引廻し事四度次第より二三四の御殿一の殿より

○六日

早且唐煎

兩官上の御厨より着座拜禮酒三献終て出仕大神と拜し南より退き出づ但し龍二日の夜より今曉より唐煎の神殿に備へ奉り供物よりと龍和く拜掌し侍と唐煎と稱し

○七日

於連歌所御會

○十八日 古正印殿御歌會

○廿日

大乘會定之神事

午尅兩官氏人大海社司神官勸定司神寶所等上客殿着座酒一献の後樂所陵王納曾利を奏し酒二献とす各退出樂所の着座より三月會の殿上より

○廿三日

古正印殿御連歌 ○廿五日 二季御連歌

○廿七日

古正印殿御歌會

三月

○朔日

早且兩官出仕拜太神

正祢宜祝詞と奏し殿廻り終て退出し

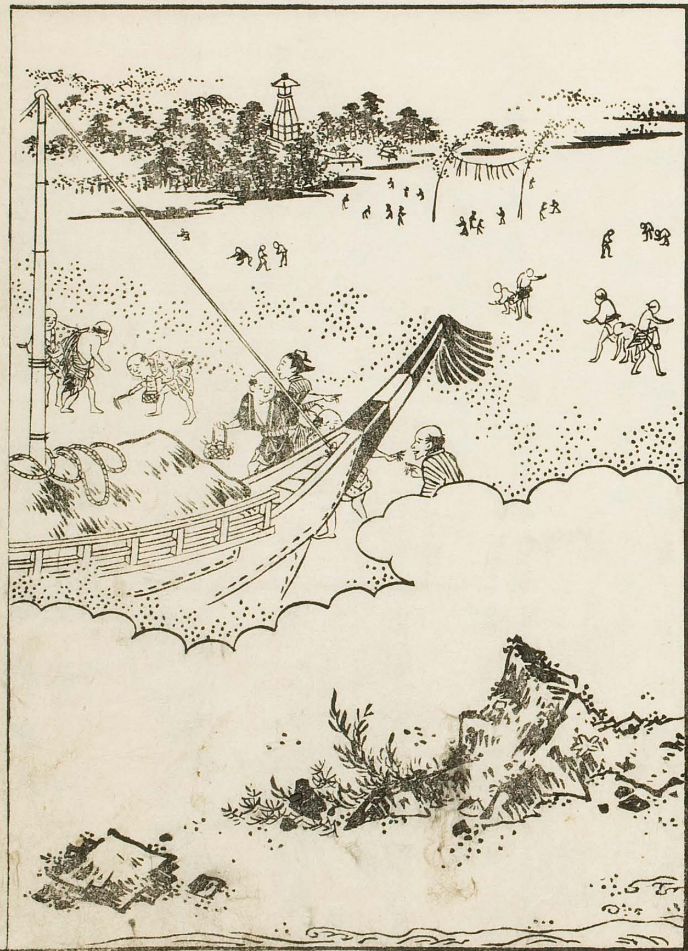
○二日

早且同昨日

○三日

辰尅神供備進





兩宮の神官樂所靜門より御前より幣殿に
正稱宜祝詞と奏して各五所の御前より神官樂所
廊下繩違と敷て座に樂所座の上の役屋に座し神官北
中門の廊下小庭より座に其後圖雜十番神司
の舞より後王納蘇利と奏し
其後殿廻りて終る

○七日

戌尅大乘會試樂

住江殿より執行し兩宮入

官西の裏戸の際に座し權官南の高欄の際に座し各
小文置一帖と敷く万歳樂延喜樂後王納蘇利と奏
舞樂習練する義あり

○八日

大乘會

寅尅中門より御前より幣殿に

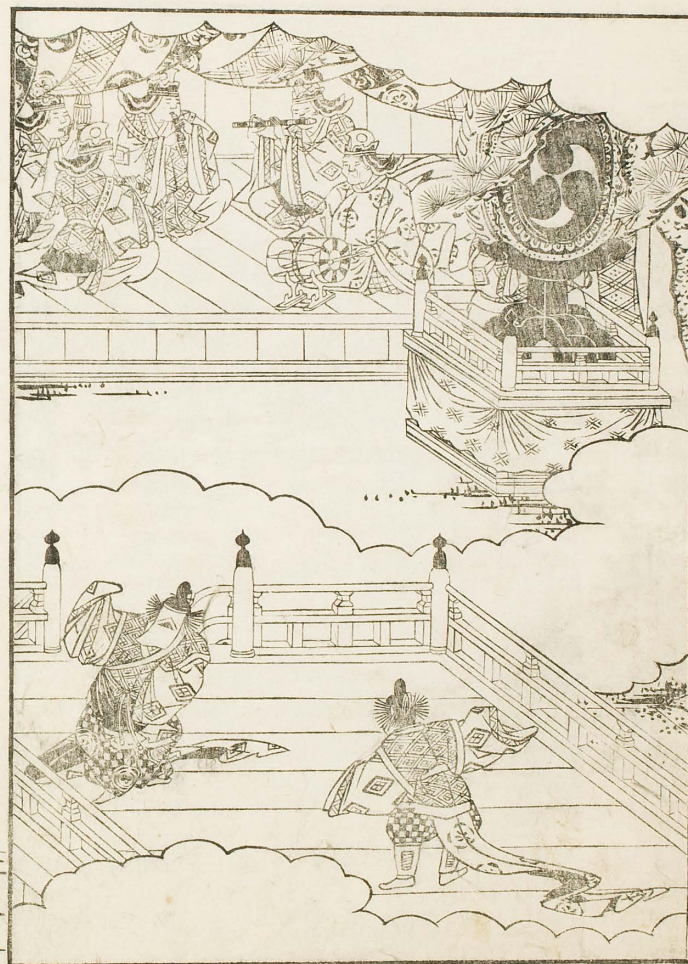
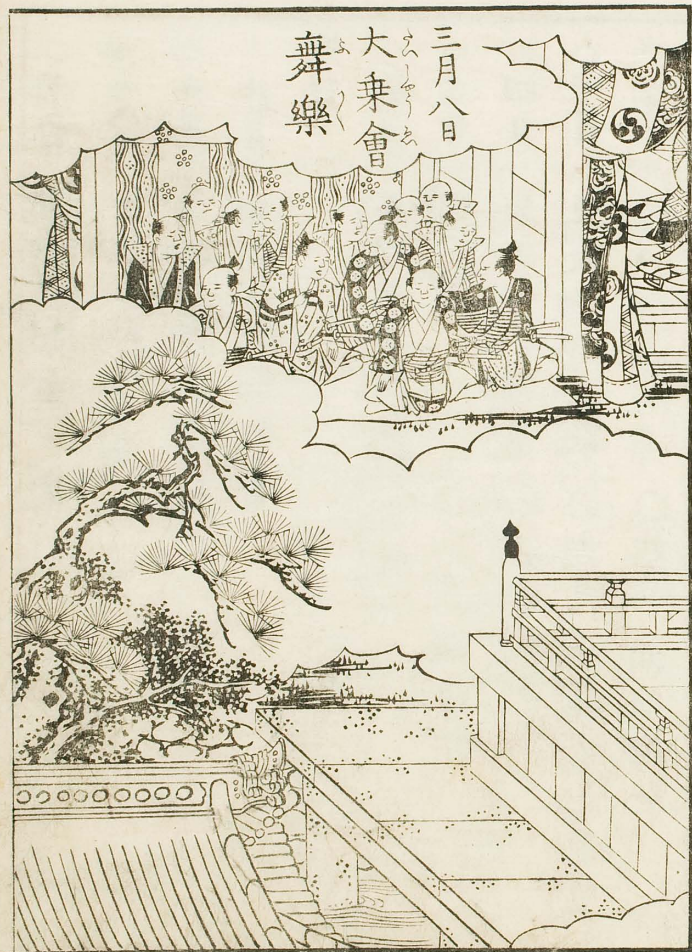
寶と出奉り左右の中門より御前より幣殿に
直と出奉り兩宮以下住江殿より御前より幣殿に
祭神樂四基寄奉り各神馬と前より御前より幣殿に
胡床ととも正稱宜再拜神人警蹕樂所亂聲

○九日

小乗會

神官寺より執行し舞臺より

止る春庭樂と奏し神幸北の中門より四足門に御出
東ふれ南門より舞臺と経て南の四足門に入り門内
御宮と云く神樂と安置し總官宣命と讀み神樂
司勘所司ハ氏屋より着座し其後注僧會式と兩宮
進み次ハ巫女舞臺より振鉦次ハ曹利古次ハ傳供次
右の樂所亂聲と發し振鉦次ハ曹利古次ハ傳供次
上ハ次ハ明師舞臺より上ハ次ハ散花行道波河鳥次
万歳樂延喜樂地久樂次ハ入調舞也山間殿上と
饗膳飲酒と進み舞臺より神樂還御還城樂と奏し
元龜の比當社の神領却畧す人々散亡して人々
と請りてかちり舞臺よりききし人々散亡して人々
去り慶長十九年ハ断絶し其後寛保二年壬戌
舞樂執行せり



○十二日 連歌所御連歌會

○十八日 古正印殿八句御連歌

○廿三日 古正印殿御連歌

○廿七日 古正印殿御歌會

四月

○朔日 辰尅兩官出仕拜大神

○二日 同前日

○四日 辰尅神供備進 五所の神供例の二官

○十日 連歌所御連歌

○廿日 同所御連歌

○廿三日 同所御歌

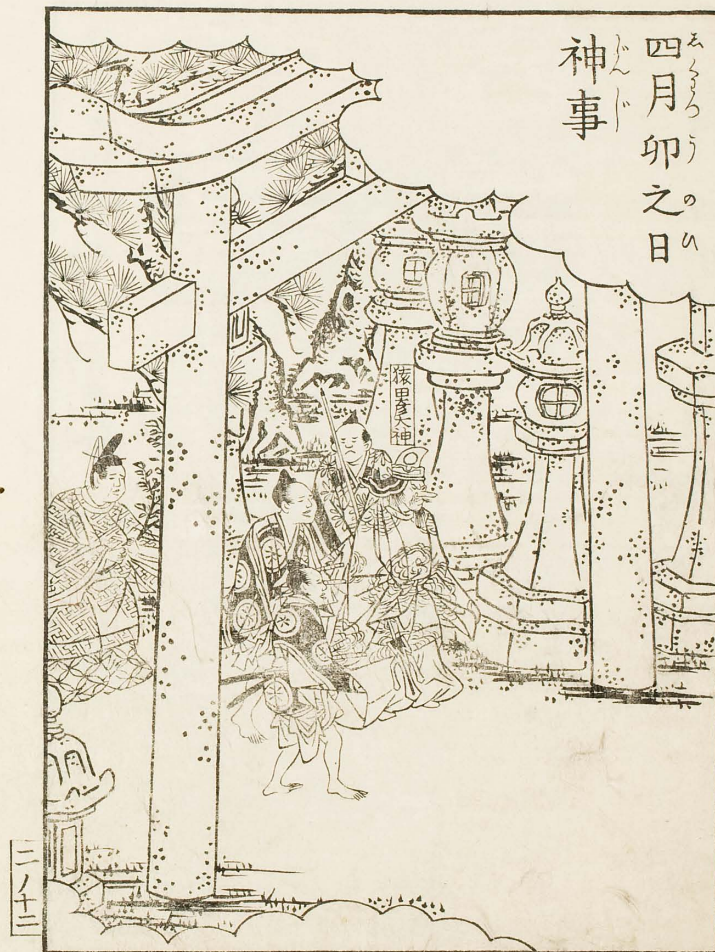
○上之卯日午尅卯日祭

幣取て拜する事四度終て神人渡り神人亦權少
祝に神馬四正引廻り事三度女に神寶取て奉り
權少祝神殿の神戸に用總官の前より導路する
時兩官以下退出し三三四の御殿に是より其後五所
御前の御供權祢宜祝詞と差し樂所亂聲を發し
兩官神殿より神樂一基神馬と寄奉り神幸行也
北の中門と出西の門より猪の鼻より東より三月會の
中門より入り舞臺を往て南門より前より入奉り樂所
音樂は止り神寶取て奉り兩官以下着座の後舞樂
東退終て
後退出

○中之申日連歌所三木神供

五月

○朔日 早且兩官出仕拜大神 正祢宜祝詞を差し次
殿より終て退出







其三

其四

此日の神事に
卯の葉と鈴
おて檀本の
おなをたて
奉に供
く柏の
神木を
見手柏の



御供
おかし
本も
い
おの
な
う

神輿



○二日 同前日

○三日 同前日

○五日

兩官以下御前より神供を奉り正統宜祝詞を奏し各退き出五所御前神供を献し權神宜祝詞を奏し終て殿廻り未之尅競馬神所司神實所拜等々殿廻り虎十人下客殿より饗膳拜酒より行ひ兩官系宮退て上客殿より着座に競馬五番終て勝負舞凌王納蘇利と

○十日

兩官出仕拜大神 ○十六日 正印殿御祈禱

○十六日

兩官出仕拜大神 ○廿三日 同前

○廿七日

同前 咒師二座法師勝寺十人尊勝寺十人猿樂三座奉座十五人歌座三十人法成寺十五人總官の酒肴を後

○廿七日

御田植神事 兩官住江殿より着座植女等見糸の後兩官以下神籠の中より

六月

○朔日

兩官社參奉幣拜大神 正統宜祝詞を奏し二三

○二日

同前

○三日 同前

入て執社入給幣殿より着座に神宮神供備奉り正統宜祝詞をトレ二三の神供備終て社僧所司田樂以下役附けと總官の前より持糸に植女奉出の庭上と立廻り時神人松の葉を持奉て植女等々猿樂植女の中より立て大鼓拍板と打て歌ふ次は僧風流奉田樂猿樂風流と終て兩官以下南門より神籠の中門と出て御田代の座より着座植女等御田の南の岸とくる次は社僧風流とて同く廻り次は奉田樂猿樂風流終て植女御田と渡り田樂等大鼓拍板と打て歌ふ次は植女田よりて次は一苗と植女此間兩官以下酒一献肴一種次は鯉魚の打肉とす此一献次は同膳前とす此次は菓子次は又一献進物居物とす此後後猿樂等入線と賜ふて各退出次の日猿樂田樂咒師等總官の館より各酒肴給賜

五月五日
競馬





五月廿八日
 御田植神事
 皇女は泉州堺乳守姫女を
 勸い(神功皇后長門の國より
 植女をされ當社神事御供の御田を植
 しもすり後世に傳へ給ふ御田の御田を
 成し植女を用ひし御田を
 何れ帝の時より皇女惡瘡を
 愁ひて當社に平愈を祈りし
 神はよりて夏日植ひ女を
 みて神田の稻を植ひし惡瘡



皇女は此間皇后乳守
 の家よりなりし女あり
 例に依て此里より
 樹女を御田を
 いりしも御田
 もみれば洗信
 するもたし
 植女は神領の
 百姓より
 て乳母の遊女
 とをよりし
 りしにいつの
 らののち成
 ありや
 予に

[illegible]

同日田樂之圖

田樂の種を植ふ時、歌をうたひて曲をうたへて、男女の老若を別けり。なりて田樂の名より其源邊鄙の民間よりても

中井田樂
猿樂音一
おそな
貴公子津
前
めれ
これ
我れ



○十二日 同前

○十六日 同前

○廿三日 同前

○廿七日 同前

○晦日 荒和大祓

早且兩官社糸幣殿、着座に神

正祢宜祝詞と奏し、神寶を出し奉る。三四の神供も右に
同し。な、五所の神供備へ奉りて各退出。兩官住江殿
と束帶を着已。越以下、の官を引て下客殿の庭に
着座。正祢宜北にむいて祝詞を奏し、酒一獻とす。
ひたし、各奉仕。な、祭樂所、亂聲をこゝし、神樂一基、神
馬を寄奉。出、河の時、慶雲樂、奏し、北の門より出て
猪の鼻と南へ曾利橋と渡り、西の犬鳥井より出、爰にて
祭馬に乗、泉州郡の宿院へ供奉。い、散樂、大
鳥井のよりして止む。宿院より、總官、奉幣、宣命、終て
連々踏と舞、な、舞樂、い、還、河平橋より、各下馬、橋
の北に、被り、終て後西の門より、入、河、三、四の神殿
の、い、と、過て、南中門より、奉仕、な、や、な、人、按、神寶等
と納め奉り、な、酒三獻
終て各退出

七月

○朔日 早且兩官出仕拜太神

正祢宜祝詞と奏し、
殿廻り終て退出

○二日 同前

○三日 同前

○七日 神寶蟲拂

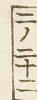
庭の越、兩官、氏人、神官、南門、前、に
終り、神供、四前、備へ奉りて、後、正祢宜
祝詞を奏し、退き出、て五所の神供、献し、兩官、下、殿
廻り、終て、奉、殿の幣、殿、着座、に、内、陳、の神寶と取出
神寶の笈と封し、終て各退出

同日古正印殿御歌

同日申越火替之神事

兩官出仕高松二時と海前
の庭上、立其前、着座に
御供、四膳と高松、備へ、正祢宜祝詞と奏し、後、則、備へ
奉り、神供と兩官の前、に居、神官等、拜膳に、な、酒一
獻、終て
各退出

被_レ大_ナ和_ニ荒_ク



樂所





○十二日 早旦兩官以下出仕奉幣拜大神正祢宜禊祓

○十五 孟蘭盆會厨の尅兩官以下一本社幣殿を着座に御供四前備奉正祢宜祝詞を奏し殿廻り終て五所の神供例の備殿廻り終て南門より往江殿入午の尅孟蘭盆會神人寮内とて兩官以下南門より卒殿入る樂所亂聲を發し大海社司氏人等左右の廊又着座に讀讀師高座より上り行道講終て樂所散手貴徳を奏に相撲十番勝負の舞拔頭納獲利長慶子を奏して退出

○十六 兩官出仕拜大神

○廿三 同前 ○廿七日 同前

八月

○朔日 早旦兩官出仕奉幣拜大神

○二日 同前 ○三日 同前

○八日 花摘御供辰尅四法の御供

○九日 己尅若松社神御供 ○十日 己尅與天神御供

○十二 兩官出仕拜大神 ○十五 古正印殿御歌

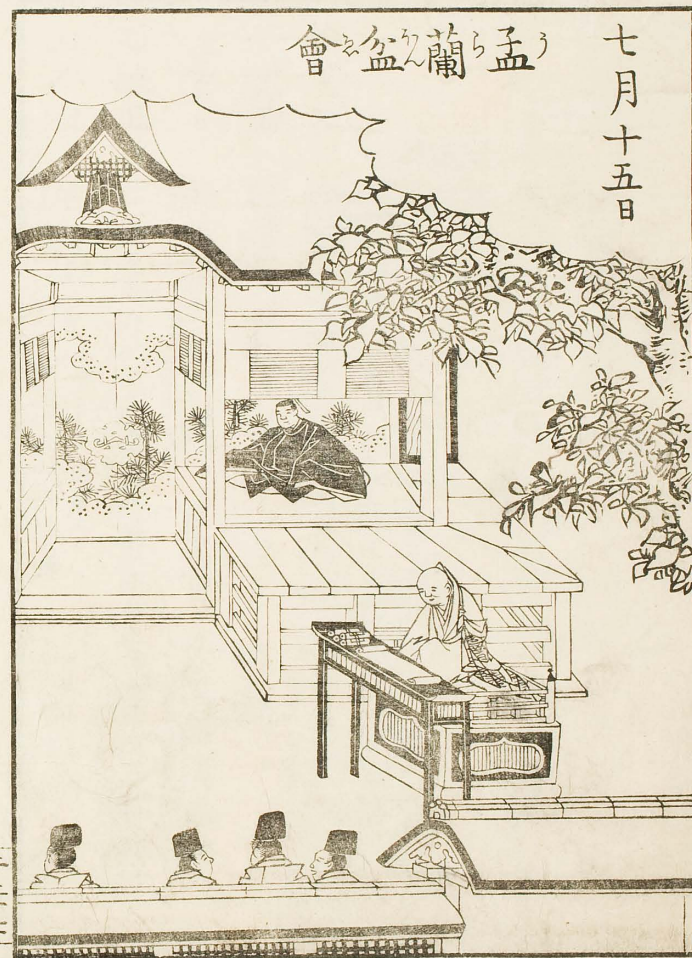
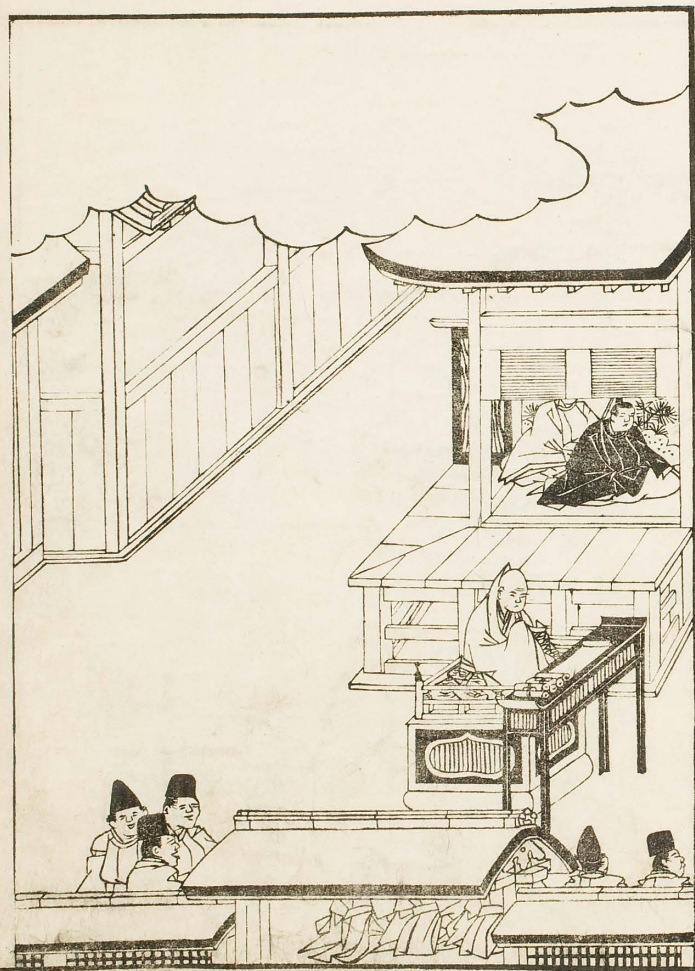
○十六 兩官出仕拜大神

○廿日 相撲會定之神事於上客殿行之午の刻兩官以下大船社司叙入樂所亂聲を發し大海社司神事の定文と兩官より呈し兩官判を加終て餐膳酒一献の間樂所茂玉納獲利と奏し今日より相撲會齋

○廿三 兩官出仕拜大神 ○廿五 二季連歌同二月

○廿八 兩官出仕拜大神

九月



○朔日 早旦兩官出仕奉幣拜大神

○二日 同前日 ○三日 同前日

○九日 辰尅神供備進 兩官以下樂所出仕例のくく神供奉進終て神寶をとり出し奉り中門廊より五所の御供例のく居置神樂も同く鑄り上客殿に置き奉り五所の御供例のく終て三月會殿中にて夜王御蘇利

退差一
退出

○十二日 兩官出仕拜大神 ○十三日 相撲會 宣上尅宿院

發一陵王納蘇利を差し兩官以下神樂供奉の人蘇利集り辰の上尅兩官以下南より鞍込に奉り神寶を捧る中蓋四枚神樂四基神馬を寄奉り神樂を神樂に移し奉り慶雲樂を奏して夜御競馬二十騎左右より北へ行て宿院の西の四足門より舞臺を経て宿院より兩官以下左右に俵に正徳宜神靈と宿院へ後より奉り神樂神馬を下り振神寶同く宿院へ座し奉る

兩官以下席を定む此同競馬左右より鞍標山を馳廻り此同宿院より行車數多られ行事繁と故これと悉盆酒をすい次く賴鎗松草の饗應酒二酌終て樂龍の御供と奉り相撲十三番童相撲二番終て員の舞振頭納蘇利を還給を催し神樂神馬を寄奉り還城樂と奏し行例前のく御路に馬場の南と猪鼻より西門より南中門より入れ奉り神靈神寶と退出す各

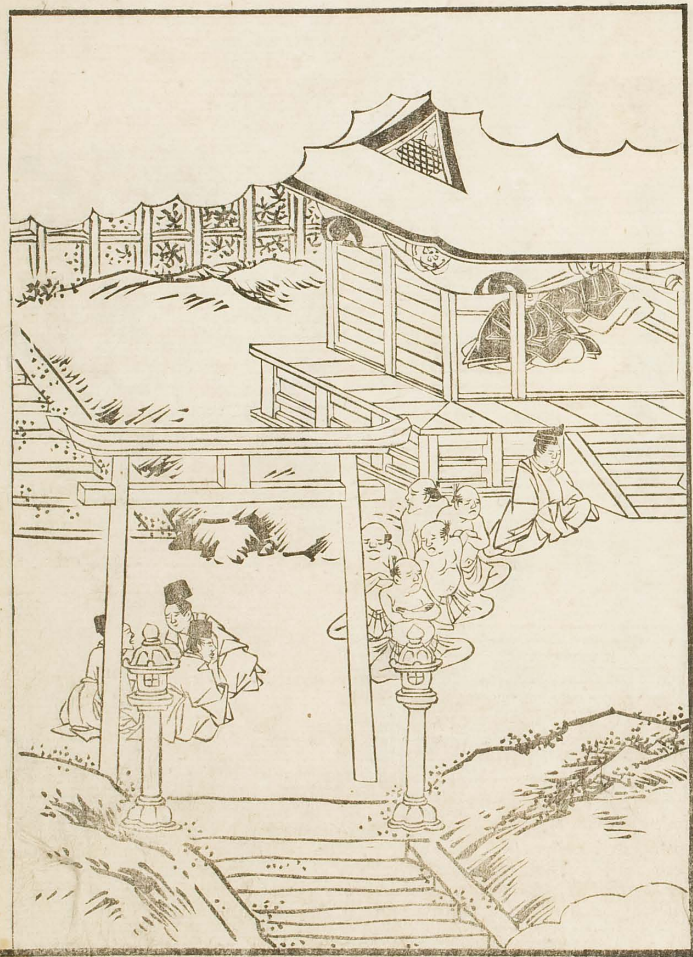
○十六日 兩官出仕拜大神 ○十六日 同前

○廿三日 同前 ○廿六日 同前

○晦日 玉出島御夜之神事 辰尅四社御供備進兩官以下出仕神寶と出し奉り南

北の廊より安置し五所御供例のく終て悉住江殿へ寄奉り兩官以下出仕樂所亂聲と發し神樂一基神馬放宿院より神樂を居奉り兩官以下廻廊より着座し





櫛（櫛）御前と賦（賦）神官（神官）祓（祓）を上げ（上げ）祀祠（祀祠）をやり終（終）て着座（着座）に酒
 一献次々連々踏（踏）終（終）て舞樂（舞樂）如（如）後（後）頻（頻）胡蝶（胡蝶）やりて還（還）御行例
 入（入）て三（三）の御殿（御殿）のわきと過（過）て南門（南門）より入（入）御神寶（御神寶）と供（供）ち
 奉（奉）り各
 退出（退出）れ

十月

○朔日 早旦兩官出仕拜大神

○二日 同前日 ○三日 同前日

○十日 同前日 ○十一日 同前日

○廿三日 同前日 ○廿四日 同前日

十一月

○朔日 早旦兩官出仕奉幣拜大神 正祿里祝詞を奏し終て殿廻り

○二日 同前日 ○三日 同前日

○十日 同前日 ○十一日 同前日

○廿三日 同前日 ○廿四日 同前日

○丑之日 相嘗祭齋戸祓於神館殿行之 西の越當村より御膳をとりおこし兩官今宵より

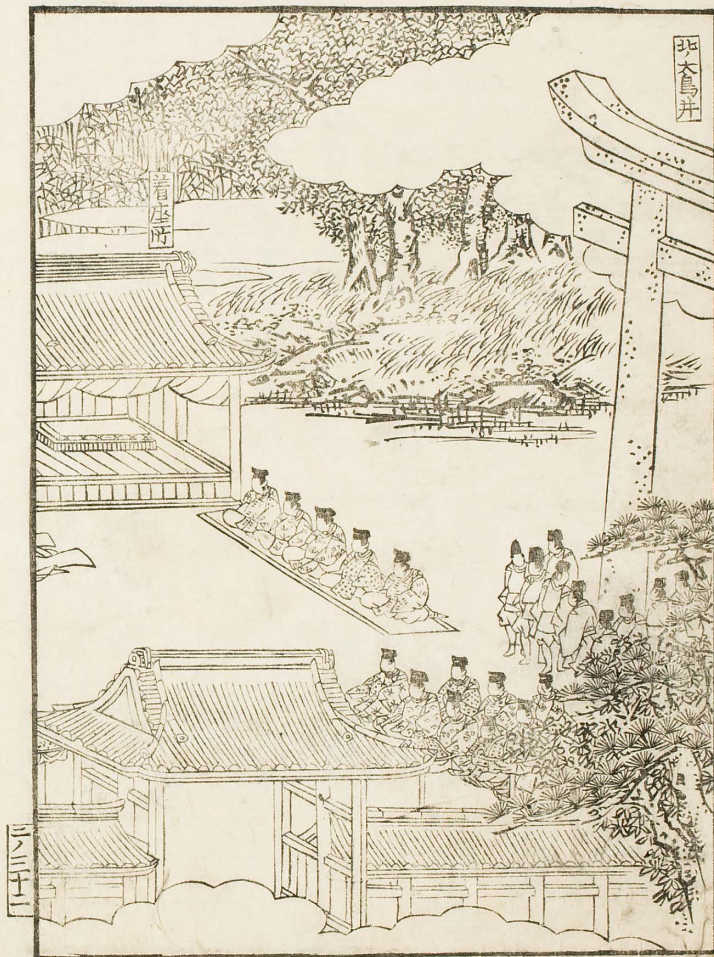
○寅之日 早旦兩官社參 西の越當村より御膳をとりおこし兩官今宵より

大海の社司定文と持し、
 兩官より呈し一献終て退出

○卯之日 新嘗會早旦兩官社參戌社祭神供備進

兩官以下社司巫女等下客殿に着座氏人手水をしめて
 後御前より兩官以下庭上より圓座をしめて座に巫女
 幣殿の左より立神供備奉事二三四の
 御殿同一事終て神館殿へ入る

○辰之日 辰赴侍者御前御供 兩官以下神館殿に着座
 神供を備へ正祿里祝詞を



羞^{ハシ}○酉之^{うの}尅^く國^{こく}祭^{まつり} 神^{かみ}樂^{がく}殿^{どの}着^き座^ざ巫^い女^め下^{した}殿^{どの}
 退出^{でしゅ}殿^{どの}に^へ参^{まゐ}廻^{めぐ}廊^{ろう}下^{した}殿^{どの}に^へ参^{まゐ}歌^{うた}曲^{きょく}あり和^わ琴^{しん}留^{りゅう}着^き座^ざ昨^{きのう}夜^よと^おち^ち
 二三四の^{ふた三四}付^つ供^く終^はて又^{また}一の^{いち}社^{しゃ}より^{より}参^{まゐ}此時^{このとき}行^い事^じ數^{かず}多^{おほ}けれ
 ぬ^ぬ累^{かさね}々^々終^はて上^{かみ}客^{きやく}殿^{どの}に^へ参^{まゐ}饗^{かう}膳^{ぜん}献^{けん}酒^{しゅ}
 酒^{しゅ}一^{いち}解^{かい}文^{ぶん}を^を覽^{らん}退^ひ出^で
 戌^い之^の尅^く里^り神^{かみ}樂^{がく} 先^{まづ}神^{かみ}樂^{がく}の^の役^{やく}人^{ひと}を^を社^{しゃ}の^の庭^{にわ}上^{うへ}に^に着^き座^ざに^に
 氏^{うぢ}人^{ひと}連^{つら}々^々踏^{ふみ}終^はて退^ひ出^で
 己^こ之^の日^ひ 早^{はや}旦^{たん}兩^{りやう}官^{くわん}社^{しゃ}に^に参^{まゐ}神^{かみ}樂^{がく}殿^{どの}に^に着^き座^ざ饗^{かう}と^と居^ゐ酒^{しゅ}
 三^{さん}献^{けん}終^はて舞^ま遊^{ゆう}の^の陪^{はい}從^{じゆ}實^{じつ}藏^{ざう}の前^{のまえ}に^に立^た立^た遊^{ゆう}を^を舞^ま
 神^{かみ}樂^{がく}の^の役^{やく}着^き座^ざ巫^い女^め侍^{しやう}者^{しや}壇^{だん}上^{うへ}に^に着^き座^ざに^に連^{つら}々^々踏^{ふみ}
 昨^{きのう}夜^よの^の終^はて次^{つぎ}に^に神^{かみ}樂^{がく}を^を奏^{そう}各^{おの}々^々出^でつ
 午^う之^の日^ひ 辰^{しん}の^の刻^{こく}兩^{りやう}官^{くわん}上^{うへ}の^の御^ご厨^く着^き座^ざ各^{おの}々^々饗^{かう}膳^{ぜん}と^と居^ゐ神^{かみ}樂^{がく}
 殿^{どの}に^に着^き座^ざ北^{きた}の^の略^{りやく}子^しに^に上^あり御^ご供^く積^つと^と下^{した}客^{きやく}殿^{どの}に^に参^{まゐ}神^{かみ}樂^{がく}
 神^{かみ}酒^{しゅ}と^と賜^{たま}ひて退^ひ出^で兩^{りやう}官^{くわん}四^し社^{しゃ}の^の殿^{どの}廻^{めぐ}り
 終^はて歸^{かへ}館^{くわん}冬^{ふゆ}龍^{りゆう}令^{れい}曉^{きやう}て満^みち
 三十三

十二月
 ○朔日 早旦兩官出仕奉幣拜大神 正祿宜祝詞と羨し
 兩官殿廻り
 ○二日 同前日 ○三日 同前日
 未^みの^の刻^{こく}兩^{りやう}官^{くわん}布^ふ衣^いて出^で仕^し幣^{へい}殿^{どの}に^に着^き座^ざ
 社^{しゃ}僧^{そう}法^{ぽう}事^じ讀^{よみ}終^はて各^{おの}々^々退^ひ出^で
 ○八日 兩官出仕拜大神 ○十五日 神宮寺佛名會
 ○六日 兩官出仕拜大神 ○廿三日 同前日
 ○廿六日 同前日 ○晦日 御煤拂神事
 兩^{りやう}官^{くわん}以下^{以下}大^{だい}海^{かい}社^{しゃ}司^し出^で仕^し各^{おの}々^々庭^{にわ}上^{うへ}に^に着^き座^ざ神^{かみ}官^{くわん}等^ら神^{かみ}殿^{どの}に^に参^{まゐ}
 雄^おの^の尾^びの^の簪^{かんざし}と^となつて内^{うち}陣^{じん}及^{及び}神^{かみ}寶^{ほう}等^らの^の煤^{すす}と^とく^く奉^{ほう}す
 終^はて正^{せい}祿^{ろく}宜^い祝^{しゆ}詞^しと^と羨^{せん}二^に三^{さん}四^しの^の
 御^ご殿^{どの}皆^{みな}是^{こゝ}に^に同^{おな}く終^はて退^ひ出^で
 ○春秋の彼岸初日より四日の間御讀經所におきて社僧法事
 八講中日放生會供て歌會あり



○祭の行事とて、車りて、二月二日
霜月新嘗會とて、大和國、山の土とて、天平、造
事又、遠里小野より、御燈の油を、献する、類の、數を、ありて
事繁、もんの、右、鮮の、故事、古、實、い、お、そ、の、た、と、り、後、編
よ、ち、れ、と、出、に

年中行事終

住吉名勝圖會卷之二終

武庫川女子大学附属図書館

04463918